

Mado窓



病院長就任のご挨拶

北里大学病院長 海野 信也

このたび、藤井清孝病院長の後任として、平成24年4月1日より大学病院長を務めることになりました。ここにご挨拶をさせていただきます。

前任の藤井病院長は9年間にわたって多難な時期の大学病院を指導されてきました。私は医学部産婦人科学教授として7年半前に北里大学に赴任し、過去約3年間は、診療担当副院長として病院長を補佐してまいりました。この間、藤井先生の温厚な性格に基づく安定的な組織運営と危機における果敢な決断について、大変多くのことを学ぶ機会をいただきました。しかし、まだまだ経験不足の新人でございます。病院長の大任を務め、特に地域医療連携における大学病院の役割をはたしていくためには、地域の皆様のご指導を必要といたしております。なにとぞよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

「新病院プロジェクトの進行状況」

北里大学病院は昨年度より本格的な新病院建設工事にはいりました。患者様、地域の医療関係者の皆様には大変ご不便をおかけいたしております。これまでのところ工事は順調に、平成25年末の新病院棟の竣工、平成26年春の新病院の開院、平成27年はじめの消化器病センターの東病院からの移設、平成27年夏の新東病院の開院というスケジュールで進行しております。

工事期間中においても、診療は通常のactivityを維持し、特定機能病院としての高度専門的医療の提供、新たな医療技術の開発、医療研修の実施という社会的任務を果たし続け、地域の中で、救命救急センター、総合周産期母子医療センター、災害拠点病院としての機能を確保してまいります。

「これからの北里大学病院」

北里大学病院はこれからも病院の理念である「患者中心の医療」「共に創り出す医療」を実践してまいります。しかし、今回の新病院プロジェクトは、単なる病院の改築ではなく、文字通り新たな病院を創設することであると考えております。以下にその方向性について2点述べさせていただきます。

「超急性期病院として」

北里大学病院に限らず、全国で大学病院の地域の中での立場、役割が変化してきています。それは昨年の中日本大震災以降、さらに顕著になっているようです。特定機能病院としての高度医療の開発と提供、人材の育成という機能以外に、救急医療（特に三次救急と周産期・精神科などの特殊救急分野）、災害医療において大学病院の役割は確実に大きくなってきています。これからの大学病院は単独では存在し得ず、超急性期病院として、地域の他の医療機関と連携するなかではじめてその機能を発揮できると考えられます。新しい北里大学病院では、東病院と一体となって、病院の入口機能、出口機能を強化してまいります。

「地域の中の大学病院」

新病院工事の進行と平行して病院の組織自体を改革していく必要があります。患者支援センター部は本年度よりスタッフの充実をはかるとともに、大学病院と東病院の組織を統合し、一体として地域との連携に取り組むことといたしました。今後は「地域の中の大学病院」の姿を示すことができるよう、他の組織改革を含め努力してまいります。

私どもは、救命救急センターで昨年に開始いたしましたドクターカーの現場出動活動に、大学病院のこれからの地域医療連携活動の一つのモデルと考えて取り組み、1年間に100件以上の出動を達成することができました。このような活動が可能になるには、これまで培ってきた地域の救急隊との密接な連携関係の存在が前提となりました。

限られた病床で救急患者さんの円滑な受入を達成するためには、院内のベッドコントロールの効率化と地域の医療機関との連携が必要不可欠と考えております。地域医療の中で北里大学病院の果たす役割について、地域の医療関係者並びに行政関係の皆様のご理解とご協力を改めてお願いする次第です。

新しい北里大学病院の今後の展開に是非ご注目いただきますとともに、ご指導いただきますことをお願い申し上げます。

(うんの のぶや：産科学 教授)

副院長・診療部長のご挨拶



診療担当副院長 佐藤 之俊

この度、平成24年4月1日より診療担当副院長を拝命し、大学病院執行部の一員に加わることとなりました。どうぞ宜しくお願いいたします。

現在、新大学病院の建設は平成25年度の竣工を目指し順調な進捗状況です。こうした中、私は海野新病院長を補佐しつつ、また、前任の海野前副院長が勢力的に取り組んできた業務を受け継ぎ大学病院の発展に尽くす所存であります。

さて、新院長がこれからの大学病院の進む方向について、新病院への円滑かつ発展的な移行、診療実績の確保、病院の運営、理念の再確認、縦のラインと横のラインのバランス、チーム医療の推進、地域での連携など多くの主要な目標を掲げました。それらの目標のうち、私が直接関与するものの中では、①新病院への円滑かつ発展的な移行と、②診療実績の確保の2項目が重要課題であると認識しております。前者については、とくに大学病院のエンジンともいえる中央手術部の改革プロジェクトを推進していきたいと思っております。大学病院はがん診療拠点病院として、また、特定機能病院として高度で先進的な外科治療の責務を負っています。しかし、中央手術部では、麻酔科や外科系医師の不足等により満足いく稼働がなされているとはいえません。そこで、具体的には、コンサルタントの導入により部内の業務内容調査やアンケート等を行い、それらの結果に基づいて対策を計画していきます。この対策の内容としては、スタッフの勤務体制の見直し、アメニティーや設備の改善、新病院手術室を目指した新たな運用の構築、あるいは手術待ち患者さんの減少などを優先課題として取り組んでいきたいと思っております。また、新病院では、大学病院と東病院の手術室が統合し、全20室という規模の中央手術部計画が進んで

おります。これに関しては、両病院の手術室が密接に連携して上記計画を進めていきます。

次に、診療実績の確保についてですが、この4月1日の診療報酬改定を踏まえ、より効率的な診療の流れを組み立てていきたいと思っております。具体的には、各診療科に特徴的な治療対象疾患に対する診療報酬やDPCの詳細を解析し、医事課と各診療科の連携で、パス改訂などの対策をとりたいと考えます。また、日常の診療がスムーズに遂行される為の改革（例えば外来における診療アシスタントの活性化、職員の専門性向上のためのプロジェクト、患者支援センターとの密な連携など）を行うことにより、地域の医療機関とのスムーズな連携を推進していきたいと思っております。

最後に、私たちが掲げている改革は、大学病院職員のみでは達成困難であり、地域の医療関係者の皆様のご協力なくしては実現できません。さらに、新病院の完成まであと1年半しかなく、待ったなしの状況です。新しい時代を迎える新大学病院を構築するため職員ともども皆様と進んでいきたいと思っております。何卒宜しくお願いいたします。

(さとう ゆきとし：呼吸器外科学 教授)

医事課長就任と診療報酬改定について

医事課長 武石 年弘

平成24年4月1日付の人事異動により、北里大学病院事務部医事課長を担当しております武石年弘です。

3月末までは、北里大学東病院の医事課長として地域連携室を兼務しておりましたので、この「窓」を見て、「この名前に記憶があるぞ。」と思われた地域の先生方もいらっしゃるかと思います……。と申しますのも、平成20年の年末から、平成23年の夏にかけて、東病院の菊池病院長とともに約160ヶ所の紹介元の医療機関を訪問させていただきました。伺った地域は、相模原市内だけでなく、隣接する町田市、大和市、座間市から海老名市、厚木市、綾瀬市、藤沢市、八王子市まで及びました。

多くの先生方にお忙しい診療の合間にお時間をいただき、様々なご意見、ご指導を賜りました。その中には北里の両病院に対する厳しいお言葉もありましたが、温かいご支援、熱いご期待のお言葉も数多くいただいたことを大変ありがたく感じました。また大学病院に居るだけでは、全く気がつかないようなご指摘も数多くお聞かせいただき、本当によい勉強をさせていただいたと感謝申し上げます。

大学病院で勤務するのは、久しぶりですが、医事課を担当いたしますので、引き続き患者さんを通して地域の先生方とも深く関わらせていただくこととなります。今後ともよろしくご指導いただければ幸いです。

今般、このご挨拶を書くにあたって患者支援センターから、「今回の診療報酬改定に対して医事課長の所感を盛り込んで欲しい。」とのリクエストがありましたので、少しお話させていただきます。

平成24年度の診療報酬改定に関する厚労省の発表

では、全体で+0.004%の微増、薬剤、医療材料に値下げ分を差し引いた本体部分は+1.38%の値上げとなっています。

「救命救急センター」や「周産母子センター」等を抱える大学病院では、これらの急性期医療の提供に関する評価やチーム医療の推進に対する評価といった項目で大きな影響を受けていますが、加えて今回の診療報酬改定では、地域医療機関が様々な分野で連携して診療を行っていくことを評価した項目が大幅に増えています。新しいキーワードは、「医療機関間の連携による在宅医療の強化、充実」、「救急医療を支えるための連携強化」、「医療介護連携等の推進」等々……。

このような診療報酬改定の方向性を考えたとき、大学病院が急性期の入院機能を有効に活用していくためには、回復期や療養病棟、訪問・在宅診療等、更に機能分化を進めた医療機関の診療を担う先生方の協力が不可欠になることは明らかです。

病診連携、病病連携、医療連携といった言葉を初めて耳にしてから、久しく時間が過ぎました。当初、「言うは易く行うは難し。」と思われた医療機関の機能分化や連携は確実に進み、更なる展開が求められています。施設基準の届出書類に連携する医療機関の名称や所在地等を記載することに違和感がなくなってきた昨今の状況に隔世の感を禁じえない今日この頃です。

(たけいし としひろ：事務部医事課 課長)

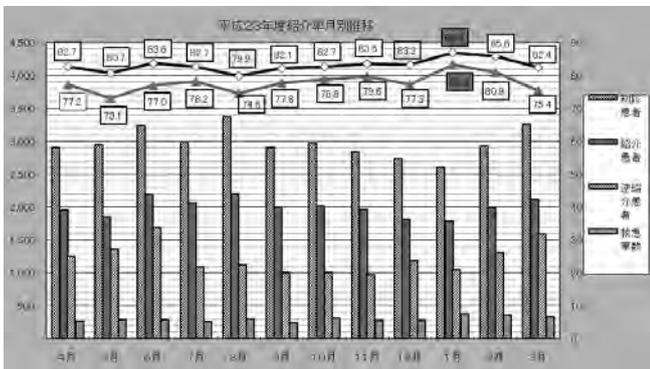
平成23年度患者紹介率について

北里大学病院 患者支援センター部

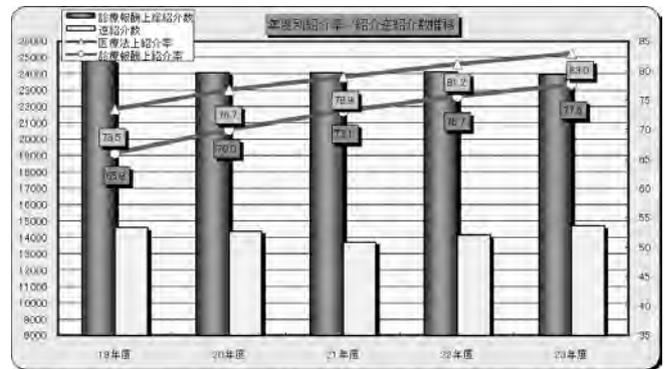
平成23年度の患者紹介率は、年度平均で医療法上83.0%（昨年81.2%）、旧診療報酬上77.6%（昨年75.7%）になりました。前年度は、東北地方における未曾有の大震災の影響から患者数の減少も一時的に見られましたが、全体的には各医療機関をはじめ近隣の医師会・地区病院協会の皆様方のご協力が高い紹介率を維持することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

今年度の診療報酬改正では、地域連携に対する重要性が益々増えたように思います。今年度も地域医療の発展に取り組む所存です、引き続き皆様方のご協力をお願い申し上げます。

平成23年度紹介率月別推移



年度別紹介率／逆紹介数推移



耳鼻咽喉科診療の一部東病院移設のお知らせ

耳鼻咽喉科 科長 岡本 牧人

平成24年4月より、耳鼻咽喉科診療の一部が東病院に移設しました。各医療機関の皆様にはご迷惑をおかけしますが、何卒御理解を賜りますようお願い申し上げます。

1. 移転する部門：神経耳科のうちの「めまい診療部門」
2. 担当する主な病気：メニエール病、良性発作性頭位めまい症、前庭神経炎、その他のめまいを生じる病気。
3. 担当医師：長沼 英明、落合 敦
4. 移転の理由：めまい疾患で受診される患者様が増加し、本院の耳鼻咽喉科の診療スペースでは対応できなくなったため。このため、診察予約がなかなか取れなかったり、受診時の待ち時間が長くなるなど、御迷惑をおかけすることが多くなったため。

東病院受診に際しましては、新たに「初診料」が必要となります。入院につきましては、東病院の病棟体制が整い次第受入れが可能となります。それまでの間は本院にて入院診療を行います。退院後は東病院での診療となります。

夜間・休日緊急時のめまいにつきましては、本院で入院を受入れます。

なお、神経耳科のうち、「難聴部門」「顔面神経麻痺部門」は本院にて継続して診療いたします。

〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里1-15-1
 北里大学病院 患者支援センター部
 TEL 042-778-9988 FAX 042-778-9599
<http://www.kitasato-u.ac.jp/khp/>
 E-mail / shoukaiw@kitasato-u.ac.jp